

# 「コインランドリー業界の現状と展望に関する研究会」報告書

2026年5月

# 目次

1. はじめに	2
2. 現状	3
(1) 事業者の状況	3
①市場規模・動向	3
(2) 消費者の利用状況	5
①利用者層（属性）	5
②利用方法（利用理由、頻度、利用の増加理由）	6
③消費者ニーズ（機能等）	9
(3) コインランドリーのニーズの変化	10
3. 近年の変遷と先進事例	12
(1) 社会インフラとしての役割の向上	12
① 災害時の拠点としての役割	12
②きれいな店舗・多様な機能の提供	15
(2) 滞在時間の快適化・効率化	17
(3) DX、AI 等の活用	18
(4) SDGs（持続可能な開発目標）への貢献	19
4. 課題と今後の方向性（案）	21
(1) 研究会での議論の経緯	21
(2) 現状・課題と今後の方向性	21
① 需要創出・利用拡大	21
② 業界全体の品質の底上げ・向上～更なる利用者拡大のために～	22
③ 出店運営上の課題への対応等～新規出店に対する地域住民や利用者の更なる理解促進のために～	23

## 1. はじめに

近年、コインランドリーは、共働き世帯・高齢者世帯の増加などにより、洗濯の時間の短縮など家事負担を軽減するサービスとしての需要も高まり、店舗数も急増している。

また、災害時において、洗濯は、生活の衛生面のみならず精神の健康面にとっても重要であり、コインランドリー事業者の中には、自治体と協定を締結し、被災地に派遣可能な移動式コインランドリーや、LP ガス発電機や炊き出し機材を備えた災害対応ランドリーの整備を行う事業者も見られる。

このように、社会に欠かせない存在となりつつあるコインランドリーが、今後も持続的な成長を実現するためには、市場拡大や新たなビジネスモデルの構築など、コインランドリー業界全体で更なる取組が求められている。

こうした状況を踏まえ、本研究会では、業界を取り巻く現状と課題を整理し、業界内の認識共有を図るとともに今後の対応の方向性について検討を行った。

本報告書は、コインランドリーを取り巻く環境変化を踏まえつつ、コインランドリー業界が持続的な成長を実現していくために、「コインランドリー業界の現状と展望に関する研究会」報告書として提示する。

この報告書を踏まえ、業界団体や事業者が一体となって取り組むことによって、コインランドリー業界が更に発展することを期待するものである。

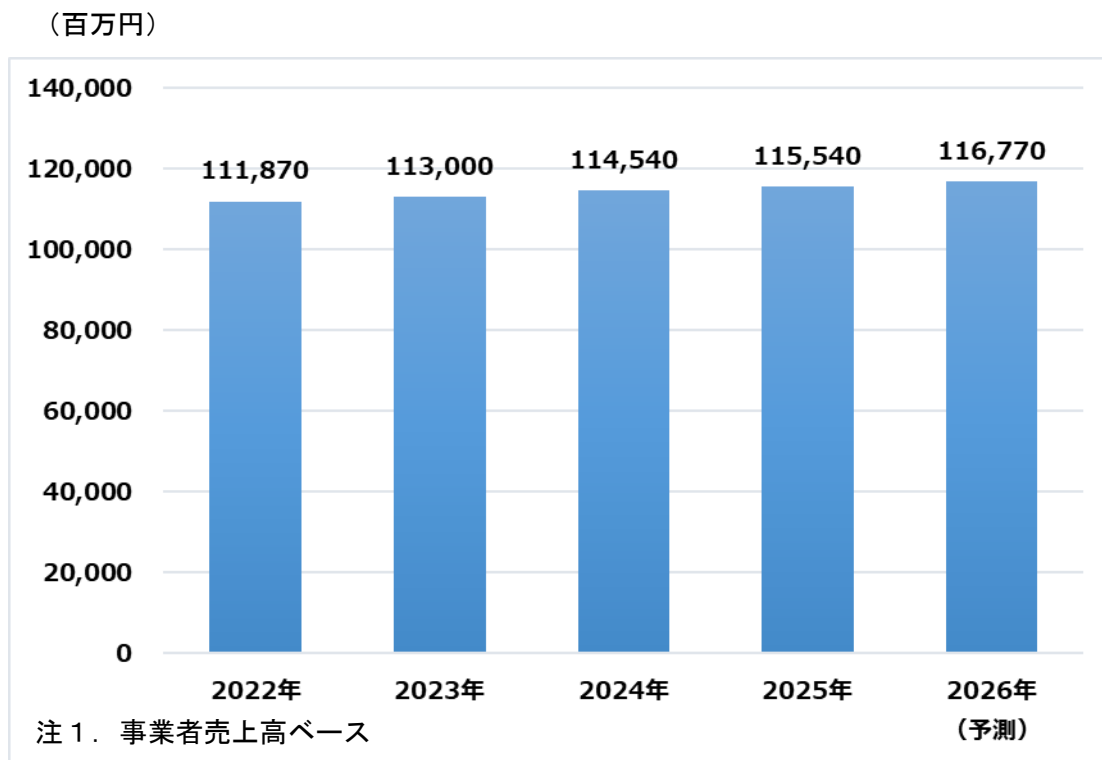
## 2. 現状

### (1) 事業者の状況

#### ①市場規模・動向

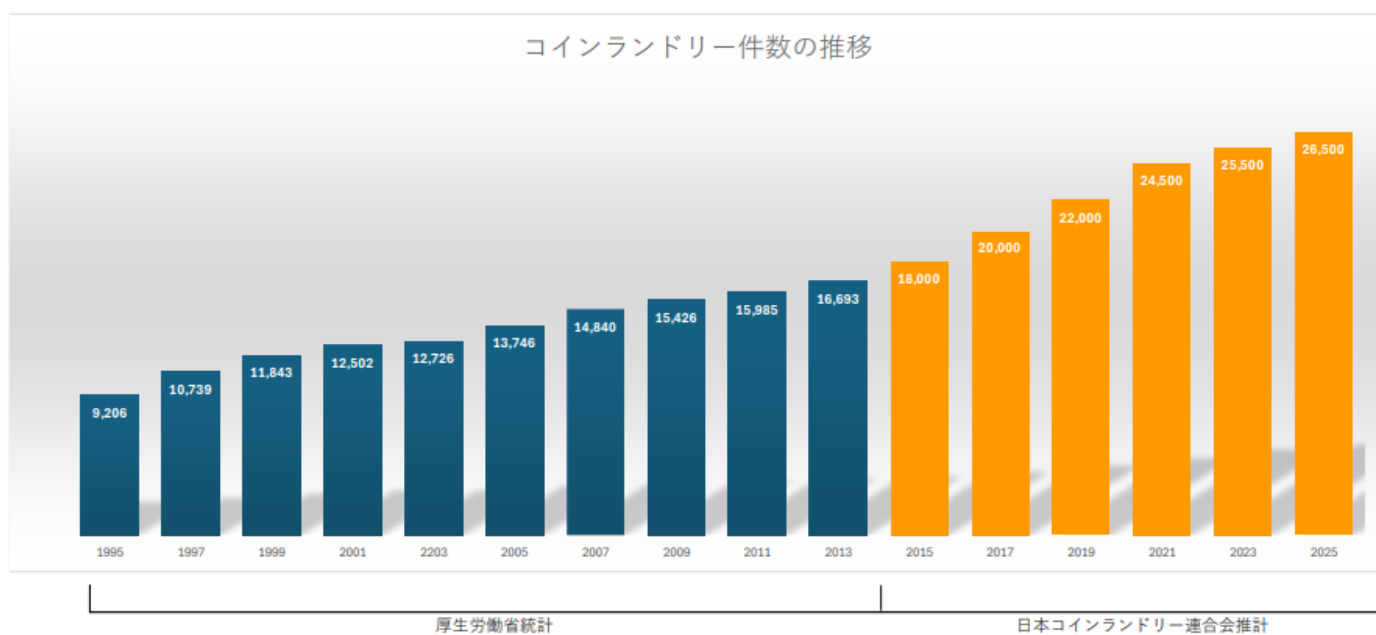
- ・コインランドリーは、かつては銭湯に併設され、学生や独身サラリーマンを主な顧客層としていたが、現在は主婦層を中心に利用が拡大している。共働き世帯の増加やライフスタイルの変化により、家事時間の短縮が志向される中、まとめ洗いや乾燥時間の効率化等を求める傾向が高まり、1度に大量に洗えて乾燥まで仕上げられるコインランドリーの需要が高まっている。加えて、花粉やダニ等のアレルギー対策等から、布団や毛布を丸洗いしたいという需要も、市場拡大の要因となっている。
- ・市場規模（事業者売上高合計）は、堅調に推移しており、2025年は約1,155億円と推計される。
- ・店舗数は、日本コインランドリー連合会による推計によると、全国で約26,000店舗となっている。

国内コインランドリー市場規模



出典：(株) 矢野経済研究所 「クリーニング関連市場に関する調査 (2026年)」 (2026年4月13日発表)

## 店舗数の推移

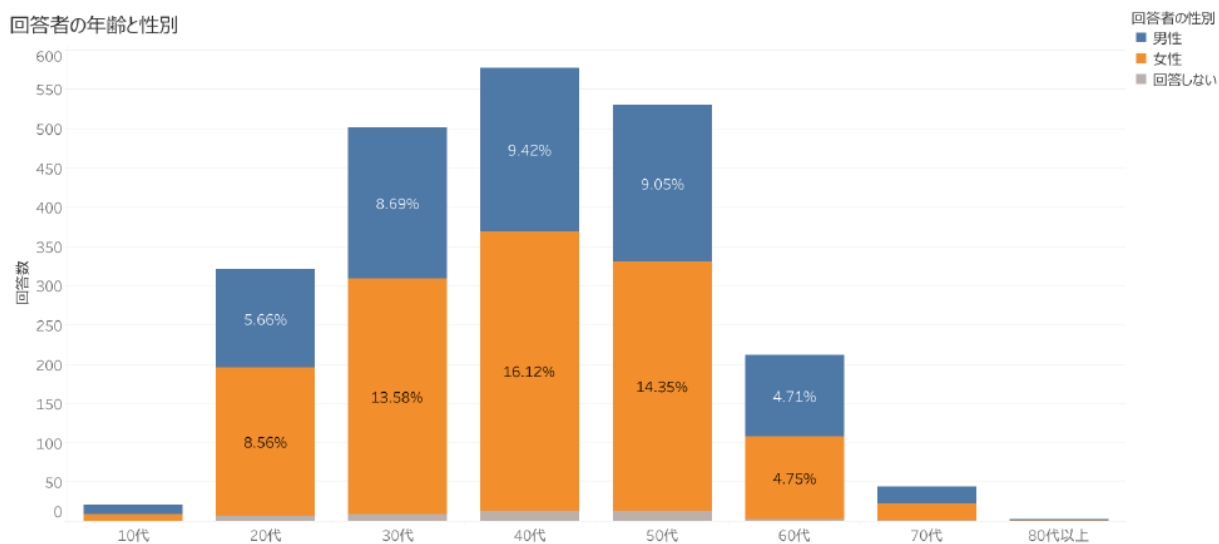


出典：一般社団法人日本コインランドリー連合会

## (2) 消費者の利用状況

### ①利用者層（属性）

- ・利用者層の属性として、日本コインランドリー連合会が行ったアンケート<sup>1</sup>によれば、性別では、女性が約6割、男性が約4割となっており、また、年齢層では、30代から50代が多かった。なお、事業者が独自に行っている調査などにおいても同様の傾向が示されている。



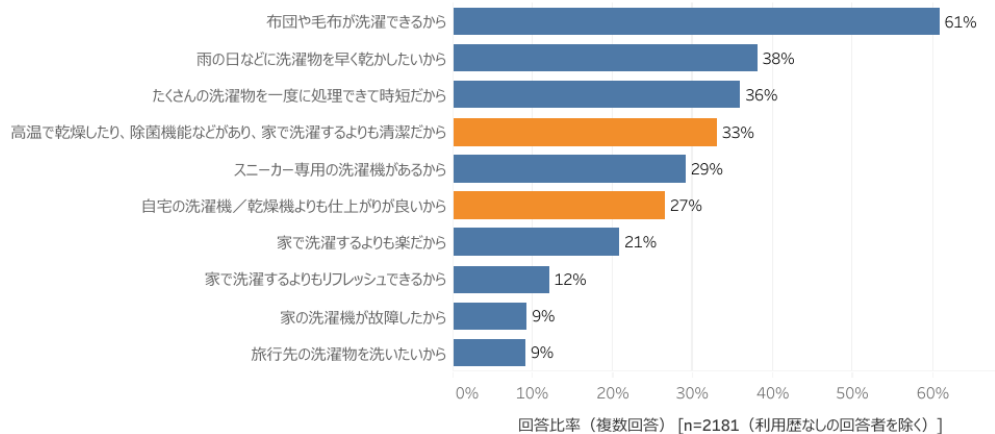
(2025年日本コインランドリー連合会アンケート)

<sup>1</sup> 一般社団法人日本コインランドリー連合会と会員企業等と共同で、5月28日の「コインランドリーの日」に合わせて実施した全国のコインランドリー利用者を対象とした意識調査。調査には2,209名が回答。

② 利用方法（利用理由、頻度、利用の増加理由）

- ・コインランドリーの利用理由について、「布団や毛布が洗濯できるから」が最も多く、「雨の日などに洗濯物を早く乾かしたいから」、「たくさんの洗濯物を一度に処理できて時短だから」といった家事負担軽減に関する理由が上位に来ている。
- ・次いで、「高温で乾燥したり、除菌機能などがあり、家で洗濯するより清潔だから」、「スニーカー専用の洗濯機があるから」「自宅の洗濯機／乾燥機より仕上がりがよいから」など、家庭よりも清潔、仕上がりがよいという機能面も、コインランドリー利用する理由となっていることが分かる。

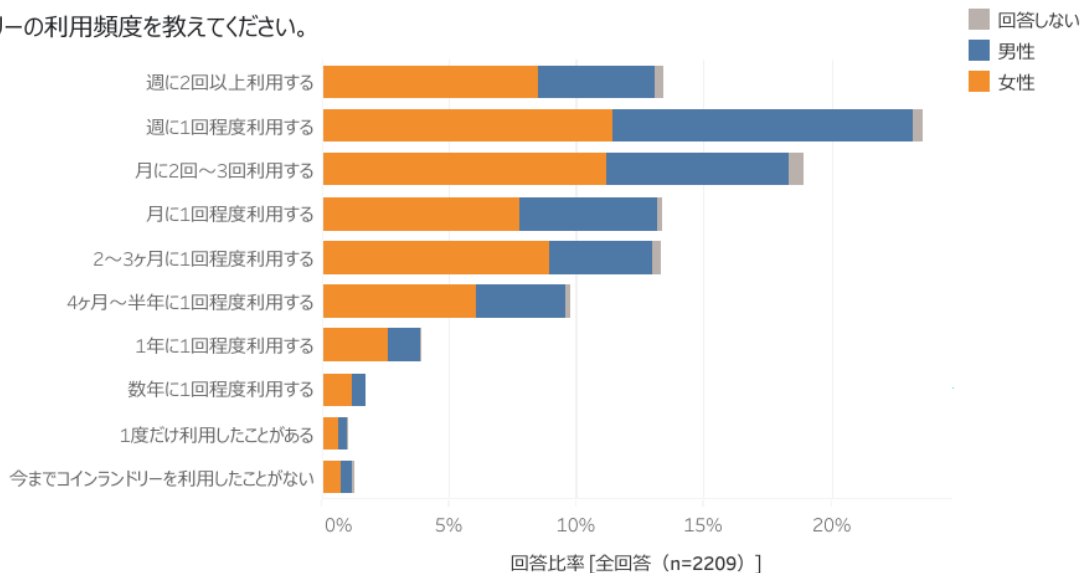
Q. コインランドリーを利用する理由を教えてください



（2025 年日本コインランドリー連合会アンケート）

- ・コインランドリーの利用頻度については、「週に1回程度利用する」が最も多く、次いで「月に2～3回利用する」が多い。

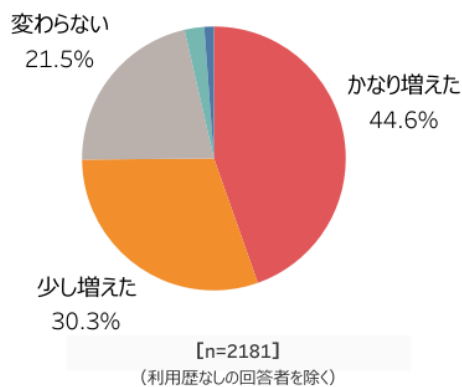
Q. コインランドリーの利用頻度を教えてください。



（2025 年日本コインランドリー連合会アンケート）

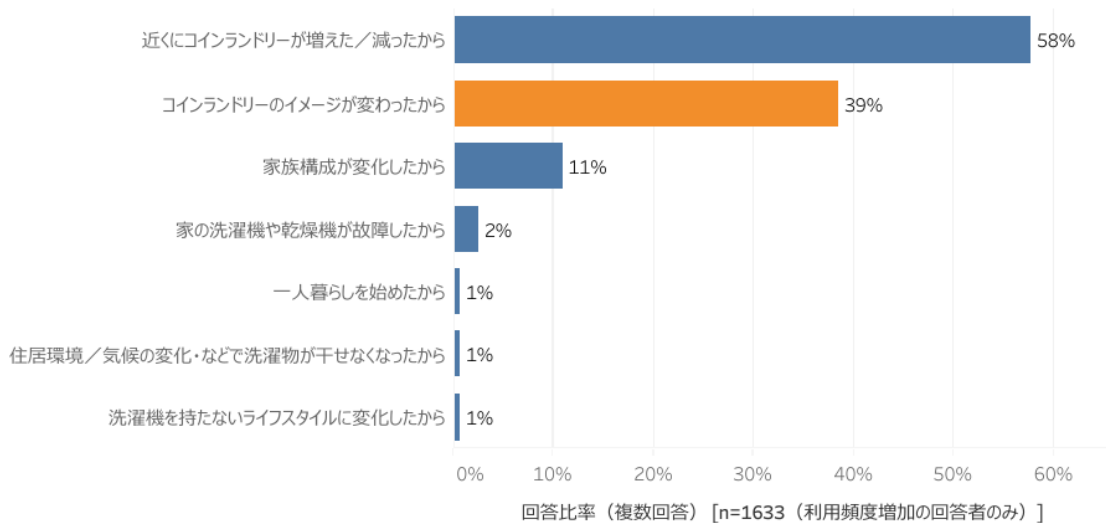
- ・直近5年間の利用頻度については、「かなり増えた」という回答が5割近い。「少し増えた」という回答と合わせると、7割以上の利用者において利用頻度が増えている。また、その理由として、約4割が「コインランドリーのイメージが変わったから」と回答している。

Q. 2020年ごろ（5年前）と比較してコインランドリーの利用頻度は変わりましたか？



(2025年日本コインランドリー連合会アンケート)

Q. 利用頻度が増加した理由を教えてください。



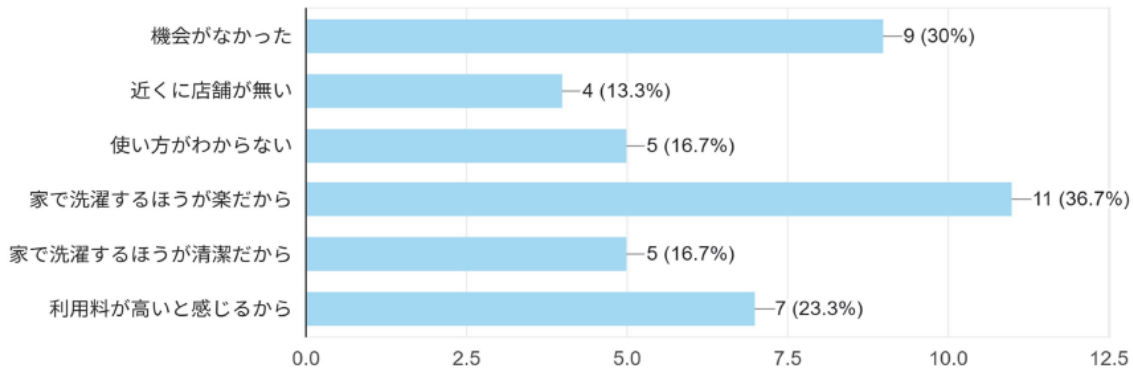
(2025年日本コインランドリー連合会アンケート)

- ・利用したことが無い理由として、「家で洗濯する方が楽だから」が最も多く、次いで「機会がなかった」、「利用料が高い」「家で選択する方が清潔だから」「使い方が分からない」という順になっている。

(注) 回答者数が少ないため、数値は参考。

「利用したことが無い」とお答えの場合は、下記より理由を教えてください。(当てはまる項目複数選択可)

30件の回答

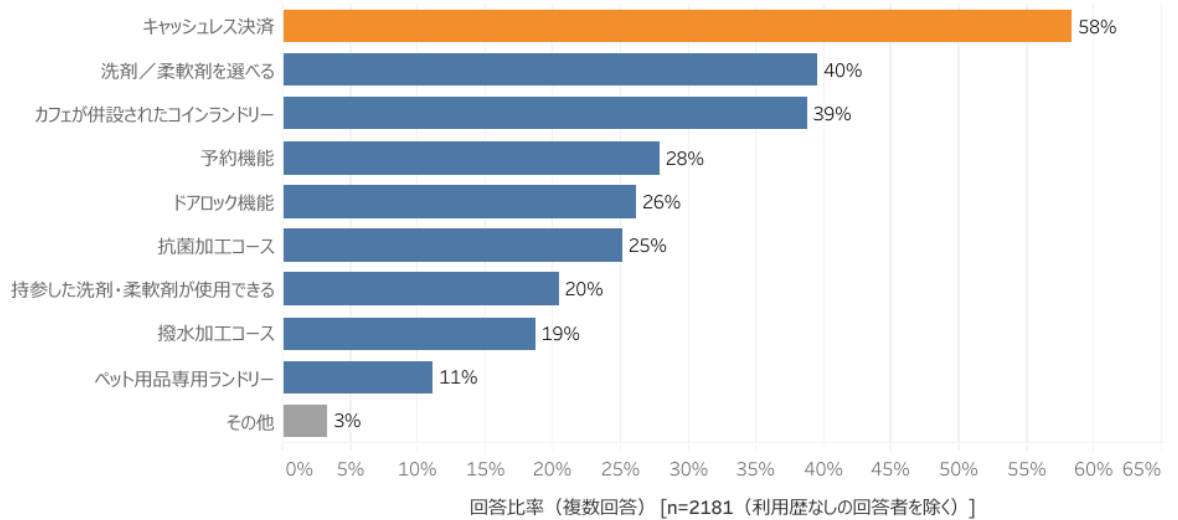


(2025年日本コインランドリー連合会アンケート)

### ③ 消費者ニーズ（機能等）

- ・また、コインランドリーの機能について、アンケートの回答者の6割が「キャッシュレス決済」を「ぜひ使いたい」と回答している。加えて、約4割が「洗剤／柔軟剤を選べる」、「カフェが併設されたコインランドリー」を「ぜひ使いたい」と回答しており、ゆったりした時間を過ごしたいニーズがある。

Q. 下記のコインランドリーの機能で「ぜひ使いたい」という機能を教えてください



（2025年日本コインランドリー連合会アンケート）

## コラム

### <他の人にも伝えたいコインランドリーの活用法>

- ・コインランドリー連合会のアンケートにおいては、利用者に「他の人にも伝えたいコインランドリー活用法」という項目についても調査を実施。
- ・第1位は、「スニーカー洗濯」、次いで、「乾燥機」や「大物洗濯」、「待ち時間活用」、「羽布団洗濯」等があげられている。

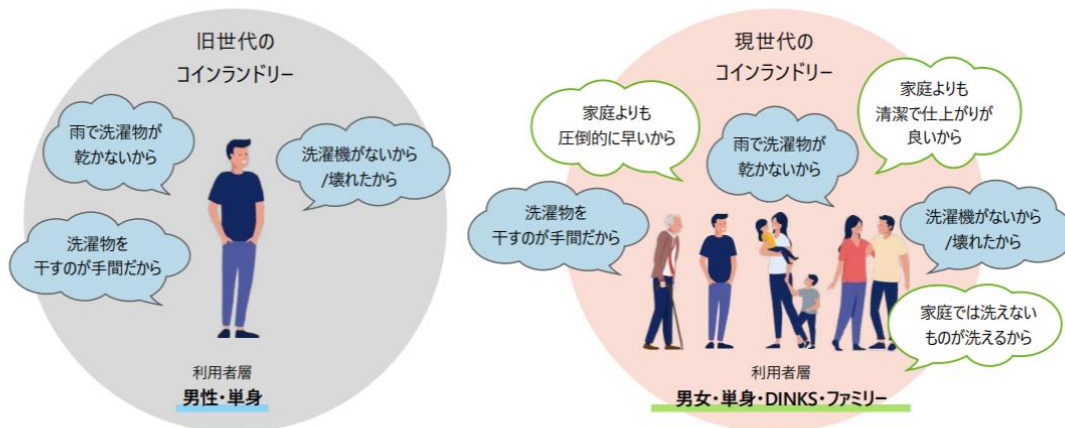
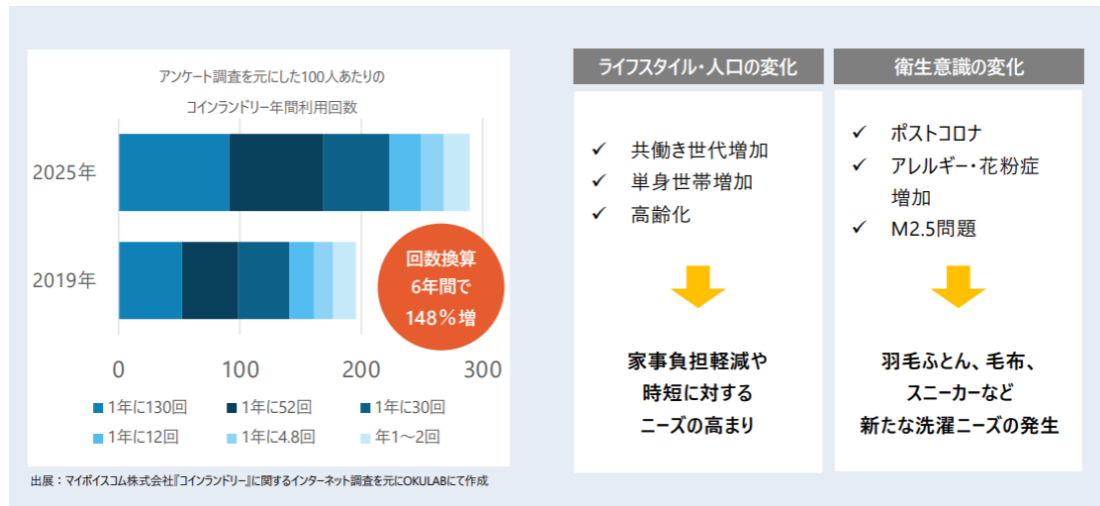
Q. 他の人にも伝えたい「コインランドリーの活用法」があれば教えてください

「スニーカー洗濯機はコスパ抜群です。」などスニーカー洗濯に関する回答	62
「乾燥機だけでも近くにあるとQOLが違う」など乾燥機の利用に関する回答	52
「大きい物が綺麗にふわっと仕上がる」など大物洗濯に関する回答	32
「洗濯中に買い物、ジムに行ってます。生活環境が変わりました。」など待ち時間の活用に関する回答	31
「羽毛布団が洗えるのが超便利！ふっかふかに復活するのでやってみて欲しいです！」など羽毛ふとん洗濯に関する回答	25
「タオルの生乾き臭がなくなり、ふわふわになる」などタオルの洗濯に関する回答	23
「ダウンがまとめて洗え、ふっかふかでフワリ仕上がる」などダウンジャケットの洗濯に関する回答	15
「Wi-Fiがあるのでworkにも」など店内でのWi-Fi利用に関する回答	13
「家事をしながらも待ち時間にゆっくり読書でもしてリフレッシュするには良い場所です」など気分転換に関する回答	13
「忙しい人の時短のために勤めたい。セールもあるし」など時短に関する回答	12
「ダニなどの効果も良いと思う」などダニ対策に関する回答	12
「衣替えの時期まとめ洗濯すると効率的」など衣替えに関する回答	12
「部屋干しよりいい。花粉や黄砂などの影響がない。」など花粉対策に関する回答	11
「家族旅行の後は大量の洗濯乾燥はとってもオススメ！！」など旅行時の洗濯に関する回答	10
その他	259
総計	582

### (3) コインランドリーのニーズの変化

- ・ 経済・社会環境の変化やライフスタイル、衛生意識の変化により、コインランドリーの需要が高まり、コインランドリーに求める価値も変化している。
- ・ 近年では、清潔さ、上質な仕上がり等の付加価値の高さや、待ち時間の居心地の良さ等の体験価値の高さが顧客満足度を高める傾向にある。

<株OKULAB 説明資料より>



## コラム

### <家事負担軽減効果に関する利用者の声>

#### ○利用者の声～時短プラス $\alpha$ の効果～

本研究会において、コインランドリーが提供している価値について、「洗濯を効率的に行えて時短になるという家事負担の軽減効果に加え、くつろぎの時間の提供など様々な形で心身の負担軽減に資する」という利用者の声が事業者に寄せられていることが紹介された。

(事業者寄せられた利用者の声)

「コインランドリーの利用は、洗濯の手間の削減、自分時間の確保に繋がり、本当に助かっている。」

「コインランドリーは洗濯のための施設・設備の域を超えて、ちょっとしたくつろぎの時間を過ごせる場所にもなっている。特に、1人になる時間がない主婦の友達に教えたい。家族がいると、息抜きのためにカフェに行くのもハードルが高い。乾燥の時間だけでもゆっくり過ごせるのは大事な時間になる。」

「子供が生まれてすぐの時、寝不足が続いたが、コインランドリーで洗ったリネン類で寝たら、産後久しぶりにぐっすり眠れた。カラッと乾いて清潔な布団に心も体も救われた。」

○「コインランドリーは、時間的にも心理的にも負担の大きい洗濯作業を時短化し、楽に快適にすることに加え、暮らしを豊かにすることにもつながる」という実感のこもった利用者の声が紹介された。

### <家事負担軽減に関する試算>

コインランドリーを使うことによって、洗濯から乾燥までの一連の作業が時短化されることから、コインランドリーを使わなかった場合に洗濯に要する時間との差分の時間が浮くことになる。

また、現在の市場規模（約1,000億円と仮定）と平均利用単価（約700円と仮定）から、コインランドリーの年間総利用回数は1億4千万回と推計される。この場合、仮にコインランドリーの利用を通じて洗濯に要する時間を1時間削減できると想定すると1.4億時間、2時間削減できると想定すると2.8億時間の可処分時間の創出に繋がると考えられる。

この時間は、自分の余暇に使ったり、お子さんとの時間に使ったり、お仕事に充てて収益を得る時間とすることもできると考えられる。

(研究会事業者プレゼンを参考に試算)

### 3. 近年の変遷と先進事例

研究会では委員及びゲストスピーカーからのプレゼンテーションを通じ、コインランドリー業界の現状や課題、動向、実情等について認識を共有した。ここでは、研究会で紹介された先進的な取組事例を示す。

#### (1) 社会インフラとしての役割の向上

##### ①災害時の拠点としての役割

- ・近年、LP ガス対応のポータブル発電機を備えることで、災害時に一時的な避難場所として利用可能な「災害対応型ランドリー」も登場している。一部地域で普及しつつあり、地元自治体と災害協定を締結する事例も存在するなど、社会に欠かせないインフラとなりつつある。

## 災害対応型ランドリー



出典：株式会社ジーアイビー

災害時に一時的な避難場所として活用可能な「災害対応型ランドリー」は、LPG ガスタンク（約3日分のLP ガスを貯蔵）を併設するとともに、発電機を配備している。

発電機はLP ガスを利用して発電し、スマートフォンなどに電力供給が可能となっている。また、ガスコンロや炊き出しセットも常備しているため、災害時に被災者に炊き出しを行うことが可能。加えて、これらの災害時対応キットを大規模災害時に貸し出す等の取り決めを含む災害協定を自治体と締結するとともに、平時には地域住民とも連携して訓練を行っている。



出典：小清水町「ワタシノ」HP  
(<https://watashino-koshimizu.jp/>)

北海道・小清水町に、公民連携プロジェクトとして開設した防災拠点型複合庁舎「ワタシノ」は、身のまわりにあるモノやサービスを、平時も非常時も役立てることができるという「フェーズフリー」の考え方を取り入れている。

「ワタシノ」では、町唯一のコインランドリーが併設され、平時は洗濯サービスが提供されているとともに、発災時は非常用電源を使用して避難所の洗濯設備として使用することが可能になっている。



### 備蓄品リスト

1. 非常食（25年保存可能 クラッカーとチキンカレー）
2. 15年保存水（500ml）
3. 歯磨きタブレット
4. 災害用トイレ処理剤（10セット）
5. スリーピングバッグ（5セット）
6. 高機能マスク（30枚）
7. レスキュータオル※濡れタオル（10枚）
8. 非常用給水袋（5枚）
9. 懐中電灯※ランタンとしても使用可能（2個）
10. 長期保存電池※単三、単四（各12本）

※内容は店舗により異なります。



▲販賣リーフレット



▲店内案内サイン  
ボックス付近に設置

備蓄品は防災のセレクトショップ「SEI SHOP（セイショップ）」のプロデュースにより選定しました。

出典：株式会社 OKULAB

「そなえるランドリー」は、一定要件以上の災害が発生した場合、地域住民や帰宅困難者にコインランドリーの店内スペースを開放する取組である。また、一定数が店内で一晩を明かすのに必要な非常用備蓄品を店内に常備し、災害時にはランドリーの利用有無にかかわらず、利用可能条件を満たした場合に使用可能となっている。

- ・また、平時は通常のコインランドリーとして活用しつつ、発災時に被災地に出動し、洗濯ニーズに対応する移動式ランドリーも存在する。このような「ランドリーカー」は能登半島地震などで派遣された実績もあり、被災地の生活の質の向上に貢献することが期待されている。

## ランドリーカー等の内閣府の災害対応車両登録制度への登録



令和6年（2024年）の能登半島地震では、ランドリーカーをはじめとした災害対応車両が、被災地で有効活用され、被災者に対して良好な居住環境等が提供された。

これを踏まえて、令和7年6月より内閣府において、発災後の円滑な被災者支援を実現するため、災害対応車両の登録制度の仕組みが構築された。

当該制度は、一定の要件を満たしたランドリーカーも対象となっている。



出典：日本コインランドリー連合会

## ②きれいな店舗・多様な機能の提供

- ・近年、「コインランドリーのイメージが変わった」との消費者アンケート結果（p7）があったように、コインランドリーの店舗設計において、洗濯が終わるまでの間、顧客が快適に過ごすことができる空間を提供し、店舗の価値を高める取組が行われている。
- ・具体的には、明るい照明、デザイン性の高いおしゃれで清潔感のある内装に加え、清掃、メンテナンスが行き届いた「きれい」で「快適」な空間を提供する店舗も多く登場。
- ・ソファやテーブル、電源等の提供により、待ち時間をスマホ操作やPC作業等で過ごせるようにしているほか、キッズスペースなどを提供することも一般的となりつつある。

### 衛生的な店舗展開（デザイン性の高いきれいな店舗）



出典：株式会社アスファクト



出典：株式会社ホームドライ



出典：株式会社OKULAB



出典：株式会社エニシフルコンサルティング

- ・また、コインランドリーの高温乾燥機能により、花粉、PM2.5、ダニ、トコジラミなどのアレルギーを引き起こす物質・害虫を駆除することができることも注目されている。洗浄の行き届いた清潔な布団は、衛生的で快適な睡眠につながり、健康の維持・増進の効果も期待できる。消費者アンケート（p6）でコインランドリーの利用者の約6割が利用理由として「布団や毛布が洗濯できるから」を選択しているなど、近年コインランドリーの利用頻度を増加させている利用者の間で、その利点が認知されつつある。
- ・さらに、自宅での手洗いに手間のかかるスニーカー専用の機器や、汚れが落ちやすいお湯で洗濯できる温水ランドリー、洗剤や柔軟剤を選ぶことができるオプション付きのランドリーなど、コインランドリーにおいて様々な機能やサービスが強化・充実されて来ている。

## 布団洗いやスニーカー、ダニ退治、お湯洗い等の機能の強化



オリジナルの洗濯乾燥機により、洗濯時に192通りの洗濯メニューが選べるため、素材等に合わせた洗い方が可能。

布団洗いでは、洗濯前に高熱乾燥でダニを死滅させた後に洗濯することにより、死骸を流し乾燥させるなど、衛生機能を強化している。

45℃のお湯洗いも選択可能で、頑固な汚れなどに対応可能。

出典：株式会社アスファクト



出典：日本コインランドリー連合会

スニーカー専用の洗濯機と乾燥機は、子どもの靴やスニーカーなど、自宅洗いできれいにすることが難しい汚れでも、簡単に早く、洗いから乾燥までできることため、利用者が増加している。



出典：株式会社OKULAB

## (2) 滞在時間の快適化・効率化

- ・スーパーやドラッグストア、飲食店などに隣接する形でコインランドリーを出店することにより、自動車で来店する主婦層や共働き世代が「買い物ついで」に洗濯できるため、時間を有効活用することができる事例も増えている。こうした事例では、既存施設との相互送客効果もあり、高い利便性を提供できるため、集客力やリピート率の向上に期待ができる。
- ・また、カフェ、サロン、フィットネスジムといった有人サービスを併設する店舗も誕生している。他のサービスの利用を目的に来店する顧客を、コインランドリーの顧客として取り込むことができるほか、ランドリーの利用方法が分からない顧客に対しては、併設店舗から簡単なサポートも提供している。

### 商業施設隣接型



出典：株式会社ジーアイビー



出典：株式会社群馬商事

### カフェ併設型



出典：株式会社OKULAB

### (3) DX、AI等の活用

- ・DX、AIの活用により、利用者がキャッシュレスによる決済や、アプリ等を通じて空き状況の確認や洗濯終了時間の通知を受け取ることの出来るサービスの導入も進んでいる。
- ・また、DX、AIにより、機器の異常探知、トラブル時の対応、売上情報の収集、メンテナンス管理等にかかる遠隔の機械操作が可能となるなど、事業者側の効率化も進展している。
- ・これらの稼働データを分析して需要を予測し、時間帯や天候などの条件で料金を変動させる「ダイナミックプライシング」を導入する店舗も誕生している。
- ・また、洗濯乾燥機に付けた大型モニターで広告を配信し、収益源を多様化する事業者も出てきている。

## 稼働状況、洗濯終了通知等利便性の高い機能の導入

### LINE、アプリ会員等への天候や利用時間、顧客別クーポン等



(出典) 株式会社ジーアイビー

LINEと連携することで、公式アカウント内に会員証を発行。利用者は会員証を提示することで、様々な特典を受けることができる。

また、スマートフォンで機器の空き状況の確認が可能である上、洗濯終了5分前にメッセージがLINEに届く。



出典：株式会社エニシフルコンサルティング

会員登録を行った場合、利用金額の割引やクーポンなどの会員特典、待ち時間の把握が可能。

店舗側は顧客情報や利用履歴を通じたマーケティングが可能となっており、アプリを活用したCRM（顧客関係性管理）を行っている。

#### (4) SDGs（持続可能な開発目標）への貢献

- ・コインランドリーのSDGsへの貢献としては、主に「環境への配慮」、「寄付」といった活動を行っている事業者が存在している。
- ・例えば、衣類のリサイクルや古本の売上の寄付活動は、コインランドリー事業者の社会貢献活動として認知され、店舗の差別化やブランド力の向上に繋がるとともに、地域コミュニティの活性化にも貢献している。
- ・過疎地域等では、地域の賑わい創出や交流を目的した拠点施設に、ニーズの高いサービスとしてコインランドリーが設置され、地域住民の生活の質の向上や地域の活性化に貢献している事例も生まれている。

### 古着・制服リサイクル



着られなくなった子供用衣類や小物を店舗の回収ボックスに持ち込み、店舗スタッフが検品、洗濯等を経てリユースブースに陳列。必要な家庭が自由に持ち帰ることができる活動。

出典：株式会社ジーアイビー

### 古本の収集・売上の寄付



近隣から不要な本を集めて、古本のチャリティ販売を開催。売上金は非営利団体に寄付される。

出典：株式会社エニシフルコンサルティング

## 過疎地域等での賑わい創出や交流拠点



長野県飯綱町では、廃校を利用した交流施設の整備に際し、保健室だった部屋を、洗濯乾燥機2台、洗濯機2台、乾燥機6台を備えた飯綱町初のコインランドリーとした。

洗濯を待つ間にランドリー室内で本を読んだりしてくつろぐ方などもあり、現代版・井戸端会議の場として、コインランドリーが活用されることが期待されている。

出典：いづなコネコトホームページ



△施設外観



△コインランドリー

長野県天龍村では、平岡駅前に、駅周辺や村の利便性を向上し、村内外の交流とにぎわいの拠点として、地域の振興及び地域の活性化を図るため、平岡駅前活性化複合施設を整備。

コインランドリーが併設されたミニスーパーに、イートインや多機能トイレが併設されている。



△休憩スペース



△トイレ



△売場①



△売場②

出典：長野県天龍村ホームページ

## 4. 課題と今後の方向性（案）

### （１）研究会での議論の経緯

コインランドリー事業者においては、サービス品質向上のための様々な取組を行っている事業者も登場している。一方で、業界全体としては、店舗数の増加に伴う競争の激化、電力・ガスの料金や人件費等の高騰が見られるものの、それらの価格転嫁がしにくい業態であること、古い施設や設備のイメージにより、安全や衛生に不安を感じる消費者が一部に居ること、新規出店や店舗運営に当たって、地域住民理解の促進や制度上の困難に直面する場合があること等が課題である旨、研究会委員から指摘があった。

また、こうした現状・課題に対しては、需要創出や利用拡大策への注力、店舗の高付加価値化の推進、業界の衛生やサービス基準の検討の必要性、防災や災害対策など社会インフラとしての位置づけ向上に向けた取組及び認知の拡大、出店や運営上の課題への対応等について、活発に意見が交わされた。

以下では、上述のようなこれまでの研究会での議論結果を踏まえ、コインランドリー業界が抱える課題と今後の方向性についてとりまとめる。

### （２）現状・課題と今後の方向性

#### ① 需要創出・利用拡大

##### 1) 課題

研究会では、コインランドリーの利用者層の変化と店舗数の増加とともに、利用者数は増加傾向にあるものの、店舗数の増加に伴い競争が激化し、経営が苦しい状況となっている事業者も増加していること、また、電力・ガスの料金や人件費等の高騰が見られる一方で、コインランドリーは、それらの価格転嫁がしにくい業態であるため、店舗の整備・高付加価値化に向けて一定の支援が必要であること等が課題として指摘された。

##### 2) 今後の方向性

#### (i) 家事負担軽減効果や利便性の周知

コインランドリーの利用者は、かつての学生・単身世帯中心から、共働き世帯などが中心となり、利用方法や利用目的も多様化していることを踏まえると、市場拡大の余地は大きいと考えられる。

本研究会においても「利用率は全世帯の約8%だが、10～20%を目指したい」、「家庭用洗濯機との違い、質の良さが訴求ポイントとなる」、「多くの人に使ってもらうこと、何度も使ってもらうことは重要なポイント」といった意見が出された。

ファミリー層の利用目的としては、まとめ洗いニーズ・時短ニーズが存在する。例えば、大型の洗濯機乾燥機を使う場合、家庭用の洗濯機の3倍程度の容量（30キロ）の洗濯物を洗濯から乾燥までを合計75分程度で行うことができ、家庭での洗濯に必要な、洗う・干す・乾かす・取込むといった一連の時間や労力を大幅に削減・短縮することができるため、家事労働の負担軽減効果は極めて大きい。こうした家事負担軽減に大きく貢献するサービスであるという

社会的な側面からの活用メリットを認知・拡大させていくことが、潜在需要の創出につながると考えられる。

これらを踏まえた今後の取組の方向性としては、例えば、業界全体が業界団体のリードの下で一体となって、コインランドリーを利用したことがない消費者等に対して、コインランドリーの家事負担の軽減効果等の活用メリットを周知する取組を行うことが考えられる。その際、「コインランドリーの日（5月28日）」などを活用し、業界を挙げたイベント開催等を行うことも需要創出と利用拡大策として効果的と考えられる。

## **(ii) 店舗の高付加価値化の促進**

研究会では、ITの活用や新業態との組み合わせ等を通じて、利用者の利便性を高めたり、多様な機能を提供したりすることで、顧客の獲得やリピート化につなげている事例が紹介された。このように店舗の高付加価値化に取り組むこと、そうした先進事例がノウハウを含めて周知・共有されることは、事業者の競争力強化につながると考えられる。

これを踏まえた今後の取組の方向性としては、店舗の高付加価値化に取り組む先進事例の周知とともに、実際に取り組んでいく上での課題となる点やポイントとなる点等を含めたノウハウの共有がなされていくことが効果的と考えられる。

また、取組に当たり、活用できる支援制度として、「中小企業経営強化税制」、「中小企業投資促進税制」等がある。加えて、災害対応に当たっては「中小企業防災・減災投資促進税制」等が活用できる場合もあることから、これらの制度の周知も併せて行い、取組を促進していくことも必要と考えられる。

その際、業界全体の対応の底上げのため、業界団体等においてセミナー等を通じて積極的に情報提供等を行っていくことも重要と考えられる。

## **② 業界全体の品質の底上げ・向上～更なる利用者拡大のために～**

### **1) 課題**

研究会では、コインランドリーの昔ながらの古い施設や設備のイメージで安全や衛生に不安を感じ、積極的に利用しない層が一部にいること等が指摘された。

### **2) 今後の方向性**

#### **(i) 業界の衛生管理基準・ガイドラインの策定**

利用者が伸びているコインランドリーの特徴として、「清潔」、「高機能」、「快適」な空間を提供していることが挙げられている。これらを通じて古いイメージから劇的な進化を遂げ、売上の増加につながっている店舗も存在している。

本研究会においても「きれい、便利、清潔さを徹底することで売上が伸びている店舗もある。」「衛生や安全面の観点から基準を検討することも必要」との意見も出された。

これを踏まえた今後の取組の方向性としては、業界内の衛生管理やサービス水準の底上げや、積極的に取り組む事業者の「見える化」などに取り組んでいくことが重要と考えられる。具体的には、例えば、衛生やサービスに関する業界ガイドライン（例：衛生・安全・環境に関する基準等）を策定し、業界内の取組を促進することが一案である。業界全体の更なる品質の底上げに向けては、策定した基準を踏まえ、同基準を遵守する企業に対して業界団体が「適合

マーク」を付与する取組等を行うことによって、消費者へのPRや差別化を図っていくことなども考えられる。

## (ii) 高付加価値化を実現している先進事例の周知・普及

上述のとおり、ガイドラインの策定及びそれに積極的に取り組む事業者を「見える化」するとともに、それらの取組を通じて店舗の高付加価値化を実現している先進事例やその水準を実現していくためのノウハウの共有なども重要である。

これを踏まえた今後の取組の方向性としては、ITの活用や新業態との組み合わせを通じた高付加価値化の事例・ノウハウ共有と合わせて、衛生・安全・環境面で店舗の高付加価値化を図っている先進事例やそのノウハウ等の周知・普及を図っていくことも一案と考えられる。

## **③ 出店運営上の課題への対応等**

### ～新規出店に対する地域住民や利用者の更なる理解促進のために～

#### **1) 課題**

研究会では、新規出店や災害対応型の店舗等を運営していくに当たって、情報・ノウハウ不足や地域住民理解の促進や制度上の困難に直面する場合があります、業界全体で対応を検討していくことが必要であることが指摘された。

ノウハウや情報の不足に関しては、例えば、災害対応型の移動式ランドリーカーや店舗等の運営について、「能登半島地震の際に、出勤を希望したものの排水などに関する調整が整わなかった」、「移動式ランドリーで被災地に行くことを検討したいが、燃料ガスや排水はどう対応することになるのか」といったコメントが事業者から出され、今後の取組推進に向けた課題と指摘する声が多かった。

#### **2) 今後の方向性**

##### **i) 防災対策の推進**

本研究会において、コインランドリーは「災害時に社会インフラとしての活用が期待できる」、「地域住民の拠り所として貢献できる」との意見も出された。平時のみならず、災害時においても、コインランドリーは人々の生活に欠かせない、社会インフラ的な存在になりつつある。

こうした中、地域住民に身近な存在であるという特徴を活かし、平時は通常のコインランドリーとして営業しつつ、発災時には地域のライフラインとして、洗濯をはじめ、電源の提供、炊き出し等を行う防災拠点としての機能を併せ持ち、自治体等とその活用について災害協定を締結するコインランドリーも増えている。また、内閣府においては、有事の洗濯ニーズに対応するランドリーカーなどの「災害対応車両登録制度」も創設されたところである。

こうした状況を踏まえた今後の取組の方向性としては、有事においてコインランドリーを活用した実績のある自治体や事業者の経験などを踏まえつつ、新規の事例創出に向けた課題を整理するとともに、今後の対応を後押ししていくための先進事例の周知やノウハウ共有等を図っていくことが重要と考えられる。

その際、発災時に地域住民に貢献することを前提に自治体等との災害協定を締結することは、地域社会からの信頼と店舗のブランド価値の向上、ひいてはコインランドリー業全体のイメージ

アップや新規出店への理解促進やニーズ拡大にもつながると考えられることから、業界を挙げて積極的に推進していくことが求められる。

## (ii) 衛生管理の推進

コインランドリーの衛生管理については、厚生労働省から各都道府県知事・各政令市長・各特別区長あてに「コインオペレーションクリーニング営業施設の衛生措置等指導要綱」（昭和58年3月29日環指第39号／令和4年一部改正）として「厚生省環境衛生局長通知（肩書当時）」が発出されている。

この件に関し、本研究会では、事業者から「最近のコインランドリーの実態にあっていない部分がある」、「保健所や消防署への届出の要否について、地域間で判断が分かれている」、「衛生管理の観点からも統一的な運用が必要」、「衛生管理の向上という観点に加え、事業者の予見可能性を高めることは、事業環境向上につながる」といった意見もあった。

また、特に過疎地域の高齢者を中心に、「洗濯代行」やコインランドリーでの洗濯のサポートのニーズが一定程度あるものの、「クリーニング業法（昭和二十五年法律第二百七号）」の規定により、そうしたサービスの提供ができないとの指摘もあった。

こうした状況を踏まえた今後の取組の方向性としては、例えば、地域ごとの届出の要否について一覽で確認できるようにすることや届出を要する場合の様式の統一化の働きかけ等、事業者の利便性を高める方策や工夫について業界団体等において取り組むことが必要と考えられる。加えて、各地域における運用実態、衛生上の課題等を把握しつつ、社会の変化、技術の進歩も踏まえながら、利用者の安全や衛生の確保を大前提に、関係者において対応の在り方やそれらを踏まえた取組を検討していくことも重要と考えられる。

## (iii) 用途地域規制への対応

一定規模以上のコインランドリーについては、建築基準法第48条によって定められる用途規制により、「第1種低層住宅専用地域」等の用途地域への出店が規制されている（特例措置による許可（いわゆる「但し書き許可」）を得た場合を除く）。

この件に関し、本研究会では、「共働き世帯の増加や高齢化の進展が見られる中で、より日常生活に身近な場所にコインランドリーが立地するニーズは高まると考えられる」、「コインランドリーは立地戦略が重要。出店可能エリアを住宅地で拡大することができれば、消費者・事業者双方にとってメリットがある」等の意見があった。

こうした状況を踏まえた今後の取組の方向性としては、他業界の事例なども参考に、「但し書き許可」を得るためのプロセスの簡素化や基準の明確化を追求しつつ、関係者において引き続き対応が検討されることが望まれる。その際、特例措置を通じた新規の出店事例の蓄積やそのノウハウ共有等がなされることも必要と考えられる。

以上

## コインランドリー業界の現状と展望に関する研究会

## 委員名簿

(敬称略、五十音順)

(座長)

西野 和美 一橋大学 副学長 経営管理研究科教授

(本委員)

石井 裕明 早稲田大学 商学大学院 商学部 准教授

奥原 早苗 サステナビリティ消費者会議 主任研究員／消費生活アドバイザー

鈴木 衛 株式会社ジーアイビー 代表取締役

太白 守貞 株式会社ホームドライ 常務取締役

羽鳥 芳一 群馬商事株式会社 代表取締役

宮澤 敏文 日本コインランドリー連合会 理事長

和田 剛 株式会社アスファクト 代表取締役会長

## コインランドリー業界の現状と展望に関する研究会 開催経過

## 第 1 回

日時：令和 7 年 10 月 31 日（金）15:00～17:00

場所：経済産業省 別館 2 階 共用会議室

## 議事

- (1) 開会
- (2) 事務局説明
- (3) プレゼンテーション
  - ①株式会社ジーアイビー
  - ②株式会社アスファクト
- (4) 質疑・議論
- (5) 閉会

## 第 2 回

日時：令和 8 年 2 月 5 日（木）15:00～17:00

場所：オンライン実施

## 議事

- (1) 開会
- (2) プレゼンテーション
  - ①株式会社ホームドライ
  - ②群馬商事株式会社
  - ③株式会社エニシフルコンサルティング
  - ④株式会社 OKULAB
- (3) 事務局説明（報告書骨子（イメージ））
- (4) 閉会

## 第 3 回

日時：令和 8 年 3 月 26 日（木）15:00～16:45

場所：経済産業省 別館 2 階 共用会議室、オンライン実施

## 議事

- (1) 開会
- (2) 日本コインランドリー連合会からのプレゼンテーション
- (3) 事務局説明（報告書（案））
- (4) 閉会